

令和3年度第3回 感染症発生動向調査部会

令和3年6月16日

月番：澤田 明

1 前月の感染症発生動向について（2021年第18週～21週・5月）

<全数把握対象疾患>

- 一類感染症の報告はなかった。
- 結核は13例あり、毎週コンスタントに報告された（やや前年より少ない；前年比：80.4%）
- 腸管出血性大腸菌感染症は、1例(0157)報告された（前年比：150.0%，前前年比：12.5%）
- レジオネラ症は、比較的毎週コンスタントに報告された（前年比：260.0%，前前年比：86.7%）
- 五類感染症
 - ✓ 毎週コンスタントに報告された疾患は、新型コロナウイルス感染症以外なかった。
 - ✓ 侵襲性肺炎球菌感染症は6例報告された（前年比：84.2%，前前年比：51.6%）
 - ✓ 梅毒は8例の報告があった（前年比：89.3%，前前年比：71.4%）
- 新型コロナウイルス感染症は、2640例報告された。

<定点把握対象疾患>

- 前月と比較しある程度の報告数で増加傾向にある疾患は、RSウイルス感染症（前月比：789.4%，前年同期比：10104.3%）、咽頭結膜熱（前月比：148.8%，前年同期比：547.7%）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（前月比：114.6%，前年同期比：219.6%）、感染性胃腸炎（前月比：121.6%，前年同期比：635.4%）。
- 全国平均と比較すると、その多くは岐阜県内では少ないが、RSウイルス感染症は急増しており全国平均より高い。

2 検討すべき課題

<保健環境研究所から>

- 梅毒について
- RSウイルス感染症について

3 情報提供すべき事項

- 軒並み前年比と比較すると、本年は高い水準となっていることについて

4 その他（感染症対策推進課から）

- 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」の一部改正について

<検討結果>